

# 平成26年度内閣府 地震・津波防災訓練 【高知県大月町】

実施報告書  
(概要版)

# 実施概要

## 高知県大月町について

大月町(おおつきちょう)は、高知県の西南端で、土佐清水市と宿毛市の上に位置し、南に太平洋を望み、黒潮洗うダイナミックな海岸線、西は比較的静穏な豊後水道に面した総面積103.03km<sup>2</sup>の町で、人口約5,700人、約7割を山林が占めています。

温暖な気候風土に恵まれ、漁業と農業の盛んなまちですが、足摺宇和海国立公園の自然美や海中景観を求めてくる観光客も多く、リゾートホテルやオートキャンプ場などの整備を行い、修学旅行などの誘致にも取り組んでいます。



参照:大月町ホームページ

## 訓練概要

■訓練想定:11月2日午前9時に、南海トラフを震源とするM9.1の大規模な地震が発生、大月町では震度7を記録。地震発生直後から津波警報が発表され、大月町は、ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し、防災行政無線により津波からの避難を呼びかけた。

■日 時:平成26年11月2日(日) 09:00~12:00

シェイクアウト訓練	09:00~
情報伝達訓練	09:00~
津波避難訓練	09:05~
炊き出し訓練・応急救護所の開設訓練	10:00~
ヘリによる負傷者救助訓練 (物資輸送訓練を含む)	10:00~

■実施体制:主催/内閣府、高知県、大月町

■参加者:約200名 ※シェイクアウト訓練のみの参加者を除く。  
(大浦地区自主防災会、大月病院、高知県消防防災航空隊、大月町消防団第7分団、幡多西部消防組合大月分署)

# 訓練報告

## 当日の訓練内容

### 9:00～ シェイクアウト訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取組みに着目し、訓練参加者全員が、音声告知端末による緊急地震速報を合図に、それぞれの場所で一齐に安全確保「まず低く、頭を守り、動かない」を行った。

#### ▼大浦地区



### 9:05～ 津波避難訓練

防災行政無線による大津波警報の一齐放送を合図に、大浦地区津波避難計画に基づき、地区内6か所の津波避難場所へ避難。避難にあたっては、高齢者同士が助け合いながら避難する姿が随所に見られた。

#### ▼津波避難場所への避難



### 10:00～ ヘリによる負傷者救助訓練

避難行動中に発生した負傷者2名を医療機関に搬送する訓練とし、高知県消防防災航空隊への救助要請と、ヘリによる負傷者救助訓練を実施。この際、避難生活を続ける住民に対する医薬品の緊急輸送訓練を併せて行った。

#### ▼負傷者救助訓練



### 10:00～ 炊き出し訓練・応急救護所開設訓練

拠点避難場所と想定した大浦集落の中心にある広場において、備蓄食料(アルファ米等)を使用した炊き出し訓練を実施。婦人会による炊き出しの間に、応急救護所の開設訓練及びAEDの使用法・止血法等の普及を図った。

#### ▼炊き出し訓練



#### ▼応急救護所の開設訓練

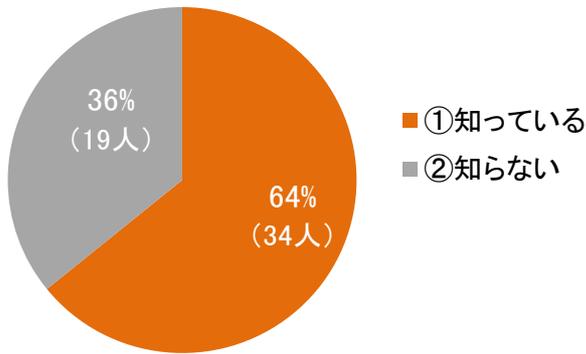


## 今後に向けた課題

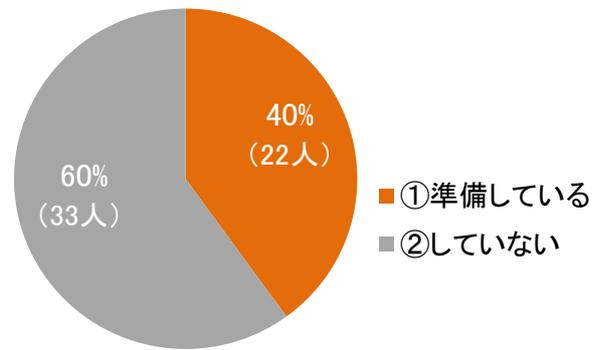
### アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。(回答数:55人)

問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？



問 地震等に備えて、食料・水・非常用持出し袋等を準備していますか？



### 訓練の評価・課題等

訓練当日の天候は曇り時々雨であり、訓練の一部中止や避難訓練への影響も懸念されたが、大浦地区自治会長をはじめとする参加者は終始熱心に訓練に取り組んでいた。特に大津波により、集落が孤立化することが懸念される大浦地区において、有効な救助手段として住民が期待を寄せていた「ヘリによる負傷者の救助訓練」も予定通り行われ、計画した全ての訓練を滞りなく実施した。

訓練実施後、大月町職員等による所見、アンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。

この結果、参加者全員が、津波避難場所への経路を把握しており、かつ避難行動の開始も迅速であったという評価の一方で、次のような課題が指摘された。

- 避難行動要支援者に対する援助体制が、やや不十分である。要支援者に対する避難援助体制について、さらに検討する必要がある。
- 各津波避難場所の計画上の収容可能人員に対し、実際の避難者数が過多となった避難所が2箇所あった。個々(戸々)の避難場所の指定についても検討が必要と思われる。